

Lifeをつなぐ 伝統を令和の時代につなぐ

高知県立大学看護学部は、1952年に高知女子大学家政学部看護学科として我が国で初めて4年制大学で看護学教育をスタートして66年、実践—教育—研究の連環の中で「看護学とは何か」を探究し、将来に拓かれた看護学の構築にチャレンジし続けています。大学院は、1998年に看護学研究科（修士課程）としてスタートし、2014年に看護学専攻博士前期課程・博士後期課程、共同災害看護学専攻博士課程の2専攻3課程をもつ研究科へと発展し、創設期から拡充期、発展期へと向かっています。

本年報は、看護学部・大学院看護学研究科の教育活動・研究活動・地域貢献活動を中心にまとめたものです。看護学部は、高知女子大学の“看護学を探究する教育”“看護実践を大切にせる教育”“学生の個性を伸ばす教育”を大切にし、次代の看護専門職者の教育に力を注いでいます。今年度より改訂したディプロマ・ポリシーに基づく「能力の獲得に焦点を当てた履修モデル」を用いた履修指導を開始しました。また、ディプロマ・ポリシーの獲得状況を評価するため卒業生を対象に調査を行い、教育効果の評価とカリキュラムの課題を抽出しました。次年度に向けて災害看護、国際看護の必修化や異文化理解看護フィールドワーク(仮)の開講を目指しています。

また、学生が国内外の地域の健康課題について学ぶ教育環境づくり、学生のニーズを重視した安全で豊かな学生生活の支援及びキャリア支援を行いました。学生は将来について考え、看護専門職者としてのアイデンティティを形成すると共に、広く社会に目を向け、立志社中の活動やボランティア活動、国際交流活動などに積極的に取り組みました。

大学院では、博士課程リーディングプログラム（文部科学省大学改革推進補助金）において採択された「災害看護グローバルリーダー養成プログラム（DNGL）」が完成年度を迎え、人間の安全保障を理念とした、産官学連携力、国際力、実践力、研究力、学際力を兼ね備えた修了生を輩出しました。また、次年度からの新たな5大学の連携体制を整備し、新カリキュラムを開発しました。博士前期課程では、研究コースに専門領域を超えて看護とは何かを問う「共創看護学」領域の開設を決定、ディプロマ・ポリシーの評価指標の検討、博士前期課程・後期課程の研究力、国際性・学際性の強化に取り組みました。

教育研究活動については、FD活動を活発化し、教員の研究力・教育力・学生を支援する力、国際化に対応する力、社会の動きに対応する力を伸ばすことを目指して努力しました。また、研究環境促進委員会を中心とした活動により、競争的外部資金に応募し、前年度からの継続と合わせて48件の競争的外部資金を獲得し、他大学の教員や実践家、大学院修了生と共同で研究に取り組み、その成果の発信や、学内の戦略的研究推進プロジェクト研究に取り組んでいます。

地域貢献活動では、高知医療センターとの包括的連携事業や健康長寿センターの活動に積極的に参画し、一般市民を対象とした健康文化の創造を目指す活動や、専門職者を対象とした看護相談室、公開講座などを実施し、専門職者の方々と共に看護の質の向上に努めました。寄付講座「高知県中山間等訪問看護師育成講座」をはじめとする高知県との協働事業、高知県看護協会との連携事業など、専門職者の教育に取り組みました。

令和元年度は、第二期中期計画の3年目となります。令和という新しい時代に新たなことにチャレンジし、さらに充実・発展していくよう、努力していきたいと考えています。

高知県立大学看護学部
学部長 藤田佐和